

## PRIMERGY RX100 S7 ご使用上の留意・注意事項

PRIMERGY RX100 S7 に関して、以下の留意・注意事項がございます。製品をご使用になる前にお読みくださいますようお願いいたします。

2015 年 9 月  
富士通株式会社

### 1. UEFI モードでの OS インストールに失敗する場合があります

BIOS 設定の [Boot] メニュー - [UEFI Boot] を “Enabled” に設定して OS インストールを行うと、インストールに失敗する場合があります。この事象は “Disabled” (工場出荷時設定) では発生致しません。

なお、本設定における “Enabled” 設定はご使用になれません。

### 2. KVM スイッチ (PG-SB205 / PG-SB206) ご使用時の注意事項

KVM スイッチ (PG-SB205 / PG-SB206) を接続してご使用になる場合、POST から OS 起動中にマウス及びキーボード操作を行うと、OS 起動後にマウス及びキーボードが動作しなくなる場合があります。OS 起動後にマウス及びキーボードが動作しない場合には、KVM スイッチの取扱説明書をご確認いただき、KVM スイッチのリセット操作を行ってください。

### 3. BIOS 上でのエラーステータスの解除方法について

BIOS 上で各種 (例: DIMM, PCI スロット) エラーステータスを “Enabled” に戻した際、[Save & Exit] メニューから “Save Changes and Exit” で BIOS セットアップを終了させてもステータスが更新されない場合があります。BIOS 上でエラーステータスを “Enabled” に戻した後は、[Save & Exit] メニューより “Save Changes and Reset” を選択して BIOS セットアップを終了させてください。

### 4. WOL (Wake On LAN) 機能のご使用時の留意事項

Shared LAN ポートは、BIOS 設定の [Server Mgmt] メニュー - [iRMC LAN Parameters Configuration] - [Management LAN Port] が “Shared” に設定されている場合、WOL 機能を使用できません。WOL 機能をご使用になる場合は本設定を “Management” へ変更する必要があります。

### 5. SAS コントローラカード (PY-SC2Z0 / PYBSC2Z0) ご使用時の留意事項

Red Hat Enterprise Linux 6 がインストールされ、かつ SAS コントローラカード (PY-SC2Z0 / PYBSC2Z0) が搭載されている場合、OS のイベントログに以下のメッセージが複数回記録される場合があります。本メッセージが記録されても装置に異常はありません。

*mpt2sas 0000:02:00.0: vpd r/w failed. This is likely a firmware bug on this device. Contact the card vendor for a firmware update.*

## 6. SAS アレイコントローラカード(PY-SR2W0 / PYBSR2W0)ご使用時の留意事項

1. SAS アレイコントローラカード(PY-SR2W0 / PYBSR2W0)を搭載し、ストレージデバイスを接続している場合、POST 中にカードとストレージデバイス間で通信確認を行うため起動に時間がかかります。(最大で約 70 秒長くなります)

これは装置の異常ではありませんので、POST が正常に終了すれば問題ありません。

2. Red Hat Enterprise Linux 6 がインストールされ、かつ SAS アレイコントローラカード(PY-SR2W0 / PYBSR2W0)が搭載されている場合、OS のイベントログに以下のメッセージが複数回記録される場合があります。本メッセージが記録されても装置に異常はありません。

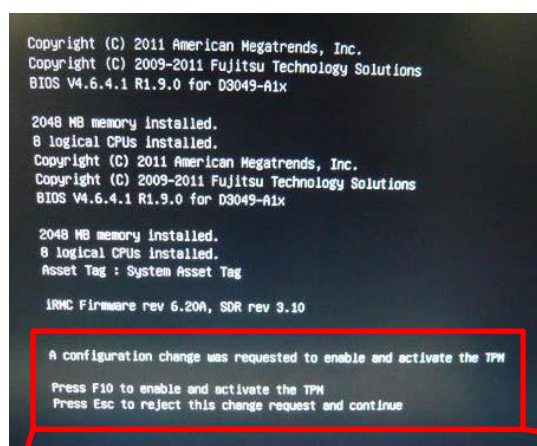
*megaraid\_sas 0000:06:00.0: vpd r/w failed. This is likely a firmware bug on this device. Contact the card vendor for a firmware update.*

## 7. セキュリティチップ(PY-TPM01 / PYBTPM01)ご使用時の注意事項

セキュリティチップ(PY-TPM01 / PYBTPM01)が搭載されている場合、起動中に[セキュリティチップの有効化]または[有効化せずに装置を起動させる]のどちらかを選択する下記の画面が表示されます。

なにも選択せずに放置した場合、ウォッチドッグタイマーによりシステムがリセットされる場合がありますので、下記メッセージ表示後は速やかに F10 キー、もしくは Esc キーを選択してください。

尚、セキュリティチップの有効化をおこなった後は、本メッセージは表示されなくなります。



A configuration change was requested to enable and activate the TPM  
Press F10 to enable and activate the TPM  
Press Esc to reject this change request and continue

## 8. 冗長電源ユニット(PY-PU451/PY-PU451C) ご使用時の留意事項

冗長電源ユニット 2 台構成時に片側の電源ユニットから AC ケーブルを挿抜した後、装置の再起動後に以下のシステムイベントログが記録される場合があります。本メッセージが連続して記録される場合においては装置に異常はありません。

Power Supply Failed

PowerSupply OK

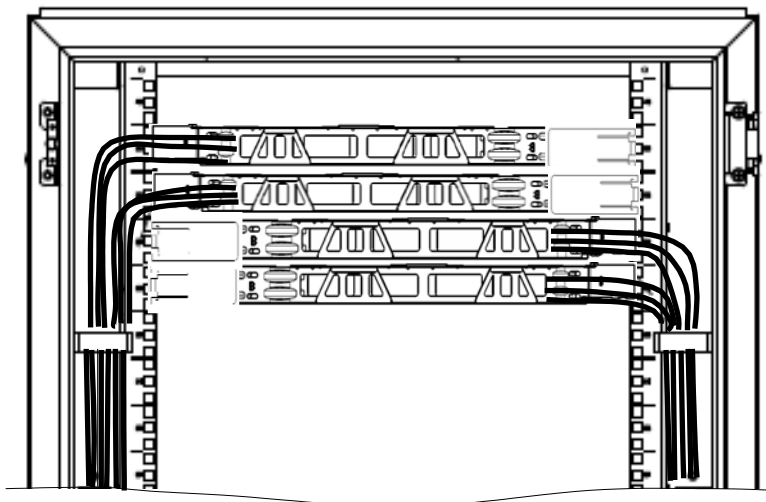
Redundant PowerSupply AC-Failed

## 9. ケーブルマネジメントアーム(PY-RA01/PYBRA01) ご使用時の留意事項

### 1. ケーブルマネジメントアームの取り付け方向について

ケーブルマネジメントアームに添付の取り付け手順ではラック背面より見て右側に配線が出る場合の取り付け例を示していますが、左右を交換することでどちらへも配線することが可能です。

ラック内で配線が集中した場合は、状況に応じてケーブルアームの取り付け方向を調整してください。



ラック背面より見る

### 2. ファイバーケーブルを使用する場合

ケーブルマネジメントアームに添付の取り付け手順の“ケーブルの取り付け”を参照し、使用するファイバーケーブルの許容曲げ半径を守り固定してください。

### 3. 装置背面へのアクセス方法について

装置背面の作業を行う場合には、最低2Uのスペースが必要です。

装置周囲の搭載状況により CMA ケーブルマネジメントアーム部材の一部を取り外す必要があります。

以下に搭載状況毎の対応方法を記載します。

なお、部材の取り外し、取り付けはケーブルマネジメントアームに添付の取り付け手順を参考に作業を行ってください。

1) 対象装置の上側に 1U 以上のスペースがある場合

ケーブルマネジメントアームのみを移動します。

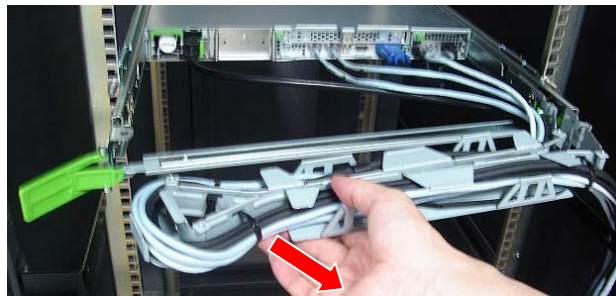
①CMA ストップを解除します。

②ケーブルマネジメントアームを後方に引き出した上で作業を行ってください。

なお、引き出したケーブルマネジメントアームが変形する可能性がありますので無理な力が掛からないように支えてください。



①CMA ストップの解除



②ケーブルマネジメントアームを後方に引き出す

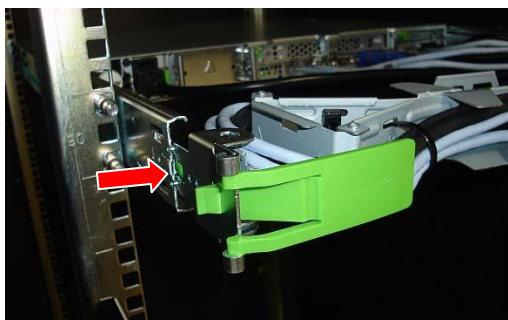
2) 対象装置の下側に 1U 以上のスペースがある場合

ケーブルマネジメントアームおよび CMA ストップ、クロスバーを含めて移動します。

③CMA ストップのロックバネを押して CMA ストップをレールから外します。

④ケーブルマネジメントアームおよびクロスバーとともに後方に引き出した上で作業を行ってください。

なお、引き出したケーブルマネジメントアーム等が変形する可能性がありますので無理な力が掛からないように支えてください。



③CMA ストップの取り外し



④ケーブルマネジメントアーム一式を後方に引き出す

3) 上下ともケーブルマネジメントアームが取り付けられている場合

対象装置のケーブルマネジメントアームおよび CMA ストップ、クロスバーと下側のケーブルマネジメントアームを移動します。

⑤対象装置の CMA ストップのロックバネを押して CMA ストップをレールから外します。

⑥下側の CMA ストップを解除してケーブルマネジメントアームを後方に引き出します。

⑦上下のケーブルマネジメントアームおよび上側のクロスバーとともに後方に引き出した上で作業を行ってください。

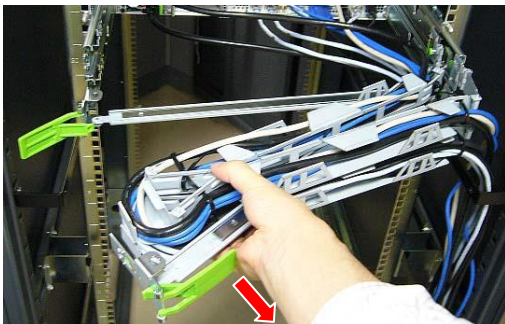
なお、引き出したケーブルマネジメントアーム等が変形する可能性がありますので無理な力が掛からないように支えてください。



⑤上側:CMA ストップの取り外し



⑥下側:CMA ストップの解除



⑦ケーブルマネジメントアーム一式を後方に引き出す

#### 4. ケーブルマネジメントアームの収納について

ケーブルマネジメントアームに添付の取り付け手順に沿って作業を行い、最後にケーブルマネジメントアームを取り付け手順の“ケーブルの取り付け”で示した位置(クロスバーに載せて)CMA ストップをロックしてください。

## 10. SAS アレイコントローラカード(PY-SR2L2 / PYBSR2L2 / PY-SR2C2 / PYBSR2C2 / PY-SR2W0 / PYBSR2W0L)ご使用時の留意事項

SAS アレイコントローラカード(PY-SR2L2 / PYBSR2L2 / PY-SR2C2 / PYBSR2C2 / PY-SR2W0 / PYBSR2W0L)を搭載している場合、BIOS 設定の[Advanced]メニュー-[PCI Subsystem Settings]-[PCI ROM Priority]の設定値は“Legacy ROM”でご使用ください。

“EFI Compatible ROM”はご使用になれませんのでご注意ください。

## 11. ネットワークカード / システムボード交換に伴う設定情報の再設定について

Windows Server 2008, Windows Server 2008 R2 を御使用の場合、ネットワークカード、またはシステムボードの交換、待機系装置への切替え、他装置へのリストア等を行うと、ネットワークコントローラを新規追加部品と装置が認識するため、ネットワーク関連の設定情報 (IP アドレス / Teaming 設定など) が初期化され、再設定が必要となります。

マイクロソフト社の以下の KB(Knowledge Base)を参照の上、事前に Hotfix を適用することで再設定を回避可能ですので、適用をお願い致します。

Windows Server 2008(SP2): KB2710558 (Hotfix 適用後、レジストリ変更が必要)

Windows Server 2008 R2: KB2344941 , KB976042 (SP1 適用時は、再度 Hotfix 適用が必要)

Windows Server 2008 R2(SP1): KB2550978 , KB976042

### ※ Hotfix 適用にあたっての注意事項

・Hotfix はマイクロソフト社のサポートページから入手してください。

2012 年 12 月時点では、以下の URL から検索可能です。

<http://support.microsoft.com/>

・Hotfix は、OS インストール時に搭載されていた部品情報を有効にするものです。

OS インストール後にシステムボード等を交換していた場合、OS インストール作業時の情報となります。

・Windows 2008 (SP 無)、Windows 2008 +SP1 用の Hotfix は公開されていません。

SP2 適用後に Hotfix を適用願います。

また、既にネットワーク関連の設定情報が初期化された場合も、Hotfix 適用により回復できる場合がありますので、この場合も適用をお願いします。

なお、Hotfix 適用によって回復しない場合は、ネットワーク関連情報の再設定が必要となります。この際、ハード変更前の LAN コントローラの情報が残っているため、変更前に使用していたネットワーク接続名を設定することができません。以前使用していたネットワーク接続名を使用する必要がある場合は、以下の作業後にネットワーク関連情報を再設定してください。

(1) デバイスマネージャを起動します。

コマンドプロンプトを開き、以下を実行してください。

```
set devmgr_show_nonpresent_devices=1
start devmgmt.msc
```

(2) 非表示デバイスを表示可能にします。

デバイス マネージャーで [表示] メニューの [非表示のデバイスの表示] をクリックしてください。

(3) コンピューターに接続されていない LAN コントローラを削除します。

色が薄く表示されている「ネットワークアダプタ」を削除してください。

## 12. Java 8 update 45(8u45)でのビデオリダイレクション (AVR) 機能の留意について

※本事象は Java 8 update 51(8u51)以降の版数では発生いたしません。

Java 8 update 45 (2015 年 4 月 14 日公開)を適用した管理端末でビデオリダイレクションを起動する場合、プロキシサーバを使用する環境において、以下のメッセージを表示して本機能が動作しないことがあります。



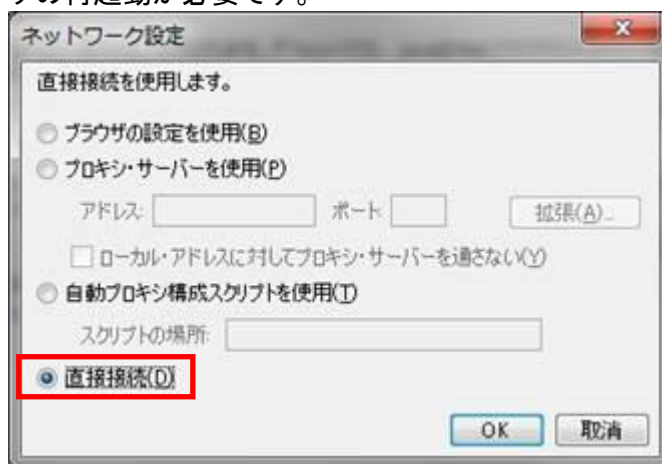
本事象は、以下のいずれかの方法で回避可能です。

- ① ビデオリダイレクションを起動する管理端末でプロキシサーバを利用しない設定にする。
- ② プロキシサーバの設定で java.com へのアクセスを許可する。  
注) 上記①②、設定をするに当たり、お客様ネットワーク管理者に確認ください。

なお、本事象は Java 8 update 40(8u40)以前の Java 版数では発生いたしません。

< 回避策①における管理端末の Java のネットワーク設定例 >

- (1) [スタート]メニューから [すべてのプログラム] → [Java] を選択します。
- (2) [Java の構成] をクリックして、[Java コントロール・パネル] ウィンドウを開きます。
- (3) [一般] タブを選択し、[ネットワーク設定] ボタンをクリックします。
- (4) [直接接続(D)] を選択し、[OK] ボタンを押下。設定を保存し、終了してください。なお、設定変更後は WEB ブラウザの再起動が必要です。



## 13. PCI スロット 2 ご使用にあたっての注意事項

PCI スロット 2 は1レーン仕様です。高速なカードを搭載する場合、十分に性能を発揮できない可能性がありますので、ご注意ください。

以上